

環境ボランティア体験がボランティア参加者の環境認知・配慮行動に及ぼす影響

小原 希海 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 林 綾子

キーワード：環境ボランティア 環境認知 配慮行動

1. 序論

近年、人間が自然を開発し破壊することで環境問題が深刻化している。対策の1つとして、環境保全を活動目的に掲げている民間のNGO/NPO団体がある。筆者はこのような取り組みに興味を持ち、環境ボランティア体験を2週間行い、環境問題の深刻さを目の当たりにした。人間の行動が主な原因として、自然に影響を及ぼしていた。人と自然がうまく共存する方法を探ることが、環境問題への取り組みとして重要なのではないかと感じた。土井(2011)は、環境に関わることで、知識を身に付け環境に対して配慮した行動ができると述べている。環境ボランティアのような体験は、単に環境についての知識を得るだけではなく、環境問題へ直接関わることから、自然と人との関係を考えさせられ、環境への深い認知から、日常生活の中でも環境に配慮した行動ができるようになることが考えられる。

そこで本研究では、環境ボランティア体験がボランティア参加者の環境認知・配慮行動に及ぼす影響と、環境ボランティア体験のない大学生との比較からボランティア参加者の環境認知・配慮行動の特色を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【研究対象】平成23年9月25日にK団体主催の環境ボランティア活動「西の浜クリーンアップ活動」に参加した環境ボランティア23名を実験群、環境ボランティア体験のないB大学の「生涯スポーツ学入門」受講者112名を比較群とした。

【調査方法】環境認知・配慮行動を測定するために、太田(2007)の「山岳環境配慮行動に関する調査用紙」を参考に筆者が一部改良し、3因子(環境配慮行動、環境認知、環境配慮行動評価)20項目を用いた。これを実験群には、体験直前、直後の計2回、比較群には1回実施した。

3. 結果と考察

環境ボランティアの環境認知・配慮行動得点を環境ボランティア体験前後で比較すると、有意な変化はみられなかった(表1)。因子別でも有意な変化はみられなかった。その要因として、環境ボランティアは体験を行う以前から、環境認知・配慮行動に対する意識が高いことや、環境ボランティア体験は1時間程度の活動であり、認知や行動を変容させるには十分ではなかったのではないかと考えられる。

Pre (環境ボランティア体験直前)	Post (環境ボランティア体験直後)	t値
61.61 (7.68)	60.78 (5.05)	-0.148
M(SD)		
N=23		n. s.

表1. 環境認知・配慮行動の平均値・標準偏差・t検定結果

環境ボランティアと環境ボランティア体験がないB大学生との環境認知・配慮行動得点には、有

意な差はみられなかった($t(133)=-1.201, n. s.$)。因子別では、環境配慮行動因子得点は、環境ボランティアが有意に高く($t(133)=-2.720, p<.01$)、環境認知因子得点は、環境ボランティア体験のないB大学生が有意に高かった($t(133)=1.994, p<.05$) (図1)。環境配慮行動評価因子得点は、有意な差がみられなかった($t(133)=-0.615, n. s.$)。環境ボランティアは実際の活動に参加していることからわかるように、環境に対する意識が一般の人より高く、ボランティアの経験からも環境を深く理解しており、日常生活の中でも環境配慮行動が出来ることが考えられる。B大学の学生は、自然環境を活かした実習が必修の授業として開講されており、大学周辺も自然豊かで、四季を感じられる場所にあることから、自然の素晴らしさや時には恐ろしさの体験から環境認知が高まったと考えられる。環境配慮行動評価とは、実行可能性、便益・コスト、社会規範の3つの側面から環境配慮行動を実際に行うことができるのかを評価することであり、環境に関する意識の高まりが日常生活に結びつかない現状が考えられる。

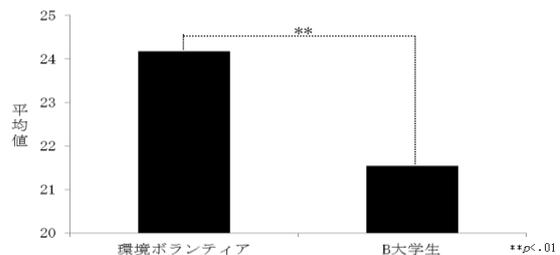


図1. 環境配慮行動因子得点(環境ボランティア-B大学生)

4. まとめ

本研究の対象となった体験は、1時間程度の体験であり、人の認知や行動を変化させられる程ではなかったことが考えられる。しかし、環境ボランティア体験は、自然がおかれている状況を感じ、人と自然がうまく共存する方法を探ることができる、とても重要な体験だと考える。今後、さらに様々な種類の環境ボランティア活動や、より長い期間の体験を対象に調査する必要がある。このような活動を普及させるには、環境ボランティアを受け入れる企業や団体の活動の社会的認知が高まり、誰でも参加しやすい環境が整えられることが期待される。

引用文献

- 1) 土井美枝子(2011), わが国の環境教育における意識と行動に関する既往研究の系譜, 広島大学マネジメント研究(11):pp99-110
- 2) 太田和利(2007), 登山者の山岳環境配慮行動の規定因について-南アルプス・仙丈小屋における登山者意識調査から-, 野外教育研究, 第10巻号第2号:pp1-12